

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590300061		
法人名	社会福祉法人 ひとつの会		
事業所名	グループホーム 湯田あいおい苑		
所在地	山口県山口市下市町2-1		
自己評価作成日	平成26年7月27日	評価結果市町受理日	平成27年1月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年8月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

湯田温泉街の立地条件や環境を十分に生かした散歩や外出、地域活動等を行う事で苑内だけでなく苑外に目を向け地域資源を生かした日常生活を大切にしている。 外出を特別なものとせず行事として特別な日に特別な事をするばかりではなく、毎日流動的に在宅と同じように行いたい事を実行できるように支援している。 生きる喜びに繋がる支援として「食」に関心を持ち楽しみにつなげる様に、散歩の途中の休憩にお店に寄ったり外食をしたり苑内の食事に関わる作業(畑作業 食事準備)をするなど行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の夏祭りや温泉まつりに利用者と職員と一緒に出かけられたり、保育園の花祭りや運動会で園児と交流されています。公民館活動への参加や事業所に来訪されるボランティアとの交流など楽しみごとや気分転換の支援をされています。日常的に地域の商店街やスーパーで買い物されるなど、地域との交流が深まるように取り組まれています。「利用者の思いを自ら表すことのできる環境づくりと職員の意識の統一」という今年度の介護目標を立てられ、利用者の思いや意向の把握に努められ、スペシャルデーを設けて個別に温泉入浴に出かけられるなど、利用者の思いを反映させるよう取り組まれています。ヒヤリハット、事故報告書の他に検討ノートをつくられ、職員間で情報を共有され、安全対策委員会が中心になって対応策を検討され、一人ひとりの事故防止に取り組んでおられます。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「その人らしく最期まで尊厳のある人生を」を事業所理念とし、利用者に1日1日を楽しく安全に生活して頂けるように、管理者と職員が日々、利用者のことを考えながら努力し実践している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。職員会議で確認している他、日常の業務の中でも話し合い、共有して、理念の実践につなげている。「利用者の思いを自ら表すことのできる環境づくりと職員の意識の統一」を今年度の介護目標として取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自治会に加入している。自治会活動（総会参加、町内清掃、回覧板の配布、保育所行事、町内祭り参加、場所の提供、）を積極的に行っている。	自治会に加入し、総会屋町内清掃に職員が参加している。地域の夏祭り、温泉まつり、神社の祭り、運動会の利用者と職員が出かけている。温泉まつりでは、事業所が子ども神輿の待機場所となっている。近くの保育園児の立ち寄りがあり、保育園の花祭りの行事や運動会の見学に出かけている。公民館活動（ギター、オカリナ演奏、大道芸、紙芝居、苔玉づくり、朗読など）に参加している他、ボランティア（腹話術、お手玉、手芸など）の来訪がある。地域の商店街やスーパーでの買い物、足湯、美容院の利用などで地域の人と日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催の行事や、地域の方 ボランティア、保育園児、実習生の受け入れ等を通じて入居者との交流を持つ中で認知症の方々への理解と支援の方法を行っている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員が自己評価及び外部評価の意義を理解している。職員会議の場で評価について話し合い、改善に向けて取り組んでいる。	管理者は「地域密着型サービス評価項目ガイド集」に基づいて項目の説明と評価の意義について、職員に説明している。職員に自己評価をするための書類を配布し、全職員に記入してもらって話し合い、管理者がまとめている。前回の評価結果を受けて職員間で話し合い「目標達成計画」を立て、利用者が事業所内だけでなく地域の中での活動が広げられるようにスペシャルデーを設けるなど、改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会の方々、地域包括支援センター職員、保育園職員 入居者、入居者家族などに参加してもらい、苑の現状報告や行事などの内容をわかりやすく説明し、参加者との意見交換を行う事でサービスの向上に生かしている。	新たに民生委員と法人運営統括責任者の2名がメンバーに加わり、2か月に1回開催している。現状報告、利用者情報、行事内容、インフルエンザなどの感染症について、職員状況、避難訓練について、外部評価結果の報告をし、意見交換している。保育園の職員より保育園での避難訓練の実施状況について話があり参考にしたり、自治会長より消防団員との交流も必要という意見があり、消防団員に声かけをするなど、意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員との情報交換や意見交換や相談など行っている。市担当課には電話などを通じて相談し連携を図っている。山口市社会福祉協議会介護相談員の訪問などを通じて、常に自己研鑽する体制を確保している。	市担当課とは、直接出向いたり電話で相談して助言を得たり、情報交換しているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センターとは、運営推進会議時に感染症についての相談や利用者情報の提供、権利擁護(後見人)について相談しているなど、連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全対策委員会を中心に情報収集を行い職員会議にて現状や新たな情報提供等を行い身体拘束防止についての情報の共有化を図っている。玄関もスピーチロックのない環境の中で夜間以外自由に出入りできるように開放している。	職員会議で研修をしている他、日常の業務の中で事例を通して話し合いをして、職員は理解して抑制や高圧をしないケアに取り組んでいる。玄関に施錠はしないで、外出をしたい利用者には、本人の思いを聞いて一緒に出かけるようにしている。スピーチロックについては管理者が注意している他、職員同士で話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	安全対策委員会を中心に情報収集を行い職員会議にて現状や新たな情報提供等を行い虐待防止についての情報の共有化を図っている。虐待に対する問題意識を高め見過ごされることがないように職員同士で指摘し合える環境に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用の入居者が1名おられる。管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度について職員会議で知識を習得し、適宜適切に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、又は改定などの際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、理解や納得して頂けるよう何度も説明を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口担当者、第三者委員を明示し苦情処理の窓口を明確にしている。玄関には意見箱の設置を行っている。運営推進会議には毎回全家族に案内状を送り、家族来苑時には積極的にコミュニケーションを図るなどして家族が要望等を伝えやすい環境作りに努めている。	相談、苦情の受付体制、処理手続きを定め、第三者委員を明示し、契約時に家族に説明している。意見箱を設置している。運営推進会議時や案内状の送付時、面会時、電話などで、家族の意見や要望を聞く機会を設けている。介護相談員の訪問があり、利用者の意見や要望を聞いている。運営に関わる意見は出していない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は年2回(春、秋)の個別面談や職員会議、委員会会議で職員からの意見、提案、要望を聞いている。職員の状態を見ながらその都度必要に応じて個別面談を行ったり、日常の会話から意見を聞くなどし運営に反映している。	管理者は年2回の個人面談や月1回の職員会議、各委員会会議で職員からの意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中でも聞いている。各ユニットごとでの会議の開催や入浴時間の変更など、職員の意見や提案を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課シートや個人面談により個々の思いを十分に把握し目標を設定するなどし、目標や理想を目指す喜びに繋がる環境作りに努めている。法人内の週1回の統括会議では現状報告を行い法人幹部との話し合いの中で職場環境・条件の整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課シートや個人面談により個々のケアの実際と力量を把握するよう努めている。外部研修は掲示板や連絡ノートを利用して情報提供を行ったり、レベルに応じて参加の機会を設けている。研修会終了後は復命報告をし共有している。月1回の職員会議でテーマを決め研修会を実施している。法人内の勉強会の参加の機会も設けている。し	外部研修は情報を職員に伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命報告をしている。資料は閲覧できるようにしている他、写し(大規模災害対策、転倒、高齢者虐待など)を配布している。法人の新人研修や普通救命講習会に参加している。内部研修は、テーマを決めて年間計画を立て、今年度は感染症(マダニ、熱中症、食中毒、インフルエンザ等)について、月1回実施している。職員は日常の業務の中で介護の技術や知識などを学んでいる他、山口県宅老所・グループホーム協会の研修会にも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム協会で認知症関係のネットワークづくりを行い勉強会に参加している。山口市介護サービス提供事業所連絡協議会の施設部会に参加し、同業者との交流を図り、サービスの質を向上させている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には自宅や施設でご本人とご家族との面接を行い要望等を聞き不安が内容に説明を行う。入居後は家族や慣じみの関係の方に訪問して頂くなどして今までの生活に近い形をとりながら不安を取り除き安心できる関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会の時間や電話連絡をし、ご家族の不安なことや要望を聞きながら全職員で情報を共有している。コミュニケーションを密にしながら関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の状況や要望が変化すると共に報告し、家族にサービス利用を理解して頂けるように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の持っている力を把握し、本人主体を基本としながらできない部分を支える関係を築いていけるよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に入居者の日常の状況を知らせ、共に喜びあい考え、家族からも本人の生活歴等を聞くなどしている。家族からも話しかけやすい環境を作っている。本人にとって何が一番最善な事かを家族と共に考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の家族や友人の面会、外出、外泊、電話(携帯電話含む)や手紙等で関係を継続している。行きつけの美容院利用や墓参り、馴染みの湯田地区商店街利用等の支援をしている。	友人や知人、親せきの人の来訪がある他、馴染みの商店街での買い物、昔の職場周辺のドライブ、自宅周辺の散歩、行きつけの美容院の利用、電話や年賀状の支援をしている。家族の協力を得ての外泊、外出、外食、買物、馴染みの美容院の利用、結婚式や葬儀への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関わりがもてるよう席の配置や日常生活の中で外出や作業などを通して自然と会話が生まれるような環境を作っている。関係性の築きにくい方は職員が間に入り互いの交流がもてるようにしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、家族との相談や支援に応じて関係を大切にしながら「縁」を大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の日常生活の関わりの中で集めた情報を介護記録やアセスメントシートに記録し職員間で共有している。困難な場合は家族から情報を得たり本人の様子から本人本位に検討している。	入居時に家族から生活歴や暮らし方、生活環境などを聞き取り、アセスメントシートに記録している。センター方式のシートを活用している他、日常の関わりの中での利用者の様子や会話を介護記録に記録し、思いや意向の把握に努めている。今年度は「利用者の思いを自ら表すことのできる環境づくりと職員の意識の統一」という介護目標を立て、利用者一人ひとりの思いを大切に、個別で温泉入浴に出かけるなど、思いを実行するスペシャルデーを設けている。困難な場合は本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から生活歴や馴染みの暮らし方、生活歴や馴染みの暮らしや環境を聞き過去の様子を把握する。本人との会話の中からもヒントとなるような情報を大切にし、現在の苑生活が充実したものになるように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートの活用や職員間での情報を共有していく事で本人の自己資源や能力を見極め現状の把握をして行くことで支援につなげている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員ひとりづつが入居者の担当を持ち担当者が中心となって家族や必要な関係者と連携をとっている。定期的なカンファレンスやモニタリングを行い様々な情報を得て意見や要望が反映できるように現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者と利用者を担当する職員が中心となって、月1回カンファレンスを開催し、本人や家族の要望、主治医や訪問看護師等関係者の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。2ヶ月ごとにモニタリングを実施し、認定期間に応じて見直している他、利用者の状態の変化や要望に応じて見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、生活記録、身体チェック表等の見直しを行い毎日の送りやカンファレンスを行う事で情報を共有し実践や、介護計画に生かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に個別支援を念頭に本人の状況やニーズに応じ職員間でケアについて話し合い、見直しをしている。状況に応じて画一的にならないよう工夫し場合に応じては業務改善を行いながら支援に努めている。他事業所のサービス等も情報交換しながらヒントにつなげていく事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源(保育園 スーパー 美容院 足湯 公民館 商店街)を利用しながら毎日の暮らしを過ごしている。又、近隣住民や商店街の人々などに見守られて落ち着いた生活が出来るよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望を尋ね、希望であれば継続できるようにしている。体調不良時には家族と連携を取りながら協力医療機関や病状に応じて専門医へ受診を行っている。受診後は家族へ状況報告、相談、今後の経過、方向性など常に行いながら体調管理に努めている。	それぞれのかかりつけ医や協力医療機関の受診を家族の協力を得て支援している。協力医療機関は、月1回の往診がある。受診時には健康情報などをFAXで知らせている。受診結果は家族の面会時や電話で伝え、介護記録に記録して職員間で共有している。緊急時には協力医療機関と連携し指示を受けるなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックや様子観察を行い、変化や、何か気づきがあれば随時、訪問看護師に電話連絡や訪問時に報告相談をしている。定期訪問看護時には定期的な採尿や採血など行い日々の様子を報告し連携を図りながら適切な受診 看護を受けられる体制を整えている。。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時には家族や医療連携室と情報交換を行い身体状況の把握に努める。家族での対応が困難な場合は付き添いながら相談を受ける。退院時には家族や医療連携室、職員との話し合いの中で早期に隊員ができるように、身体状況を把握しながら協議している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者や家族に事業所の基本方針を伝えている。又、重度化した場合の話し合いを家族、医師、関係者、職員で話し合いを行い、事業所のできることを説明し、方針を共有し支援に取り組んでいる。	指針に基づいて、事業所のできる対応について契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合には、家族や主治医、訪問看護師など関係者で話し合い、医療機関や他施設への移設を含めて方針を共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	入居者個々の身体状況を把握し、安全対策委員会が中心になり職員間で情報を共有しながら事故防止に取り組んでいる。救命救急講習に参加し復命し職員間で話し合っている。ヒヤリハットや事故報告書提出、又、専用ノートを活用し即時の話し合いを目標にその都度事故の検証 評価を行う事っている。まだ全職員が応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施には至っていない。	ヒヤリハット、事故報告書の他、検証ノートを作成している。事故等が発生した場合は、その場の職員で対応策について話し合い、検証ノートに記録して翌朝のミーティング時に回覧して共有している。安全対策委員会で再検討して、一人ひとりの事故防止に努めている。法人の救急救命講習を受講して、事故発生時に備えているが、定期的な訓練の実施には至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行っている。過去の災害事例を基に夜間や漏電等の対応等、緊急災害時の訓練を行っている。大規模災害対策研修会に管理者が参加し職員間で情報を共有することで、より意識を高めた。法人で全体研修会を定期的に行い事業所に即した災害を想定し今後の災害に備える体制を整え始めている。推進会議では地域の実態把握や消防団との協力依頼はしているが体制はまだ整っていない。	事業所独自で、年2回夜間想定避難訓練(避難誘導、消火、通報)を利用者と一緒に実施している。運営推進会議で消防団の協力について提案があり、協力依頼の声をかけているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき、入居者一人一人の尊厳を大切にしながら声掛けを行い、入浴時や排泄にも気を付けながら誇りやプライバシーに配慮し全職員が対応している。	日常の業務の中で事例などを基に話し合い、職員は理解して、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。記録などの個人情報の取り扱いや守秘義務についても話し合い、取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員による指示的な声掛け誘導ではなく、本人の思いを大切に会話や様子からの気づきの中で職員が関わりを持つようにしている。今年度は全職員共通の目標として「入居者の思いを自ら表すことのできる環境」を挙げ実践に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の様子をよく知ることから一日を始め、会話や様子などからその時の思いを見逃さず、本人に合った個々の支援に努めている。職員主体の流れでなく入居者主体の流動的なペースを大切にしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の衣類や整容時の選択には自己選択決定を行いやすい環境を本人に合わせて作っている。お化粧をしたり、買い物時に身だしなみに関する物品を購入したり、理美容院の利用等、家族の協力と合わせながら支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と育てた苑の畑の野菜や近所の差し入れ等を使い入居者と職員で下ごしらえや調理などを行っている。包丁や調理器具を使用したり、野菜の皮むきや、味見をするなど個々に応じた支援をしている。配膳下膳もそれぞれに支援をしている。	利用者の好みを聞き、メニューを作成して、三食とも事業所で食事づくりをしている。週1回調理の日を設け、利用者と職員と一緒に調理をして楽しんでいる他、下ごしらえや配膳、下膳、食器洗いなど、利用者はできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じ食卓で同じものを食べながら、味付けについて話をしているなど、ゆったりと食事の時間を過ごしている。おやつづくり(寒天ゼリー、ホットケーキなど)、季節の行事食(おせち料理、ひな祭り、ソーメン流し、バーベキューなど)、外食行事、個別の外食や家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が入居者の嗜好や希望を反映しバランスのとれたメニューを考え個々に合わせた食事量で対応している。一日の水分量を介護記録に記録し情報の共有をし把握している。水分量の少ない方には好みの飲み物やゼリー等で対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後入居者に合わせた支援をしている。声掛けや見守り、介助、場所の工夫が必要な方等、個々に合わせたケアの統一を図っている。介護記録の口腔ケアチェック表や介護記録を活用し職員の情報の共有を図っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護記録(食事量、水分量、服薬、排泄状況、時間等)を確認しながら、入居者の排泄パターンを把握している。職員間で声掛けや記録の確認を行いながら、状態が変わればパット、紙パンツのサイズや必要性、トイレ誘導時の声掛けの方法をその都度検討し、より良い排泄行為が出来るよう支援している。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の健康状態や生活習慣、食事、水分量を把握し、日々の排便状態を把握している。便秘予防として苑ではご飯に五穀米を使用し乳飲料やプルーンやオリゴ糖を飲食している。日中は散歩や買い物、生活動作においての運動をする事で自然排便を促せるよう心掛けている。医師や看護師からも助言を頂きながら緩下剤の使用も含めて便秘対策に講じている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者からの入浴の希望、お湯加減、洗髪や洗身方法等聞きながら楽しんで頂いている。発汗時や体調に合わせて適宜にシャワー浴や清拭にて対応している。男性職員が苦手な入居者には女性職員が対応している。他者と交流の少ない男性入居者には男性職員と湯田温泉を楽しんで頂く事もある。	入浴は毎日13時30分から16時の間、希望すれば朝から可能で、一人ひとりの状態に合わせて入浴が楽しめるように支援している。利用者の体調に応じてシャワー浴や部分浴、足浴、清拭などの対応をしている。入浴したくない人には時間変更や職員の交代、声かけの工夫をしている。利用者の好みや希望にそって、温泉での入浴を楽しむなど、個々に応じた入浴の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の身体状況や生活習慣に合わせ居室やリビング等で安心して静養できるよう温度調節や環境に配慮している。居室以外ではリクライニングチェアや畳縁台を利用している。ベットの苦手な方には床にマットレスを敷き就寝して頂く事で安眠に繋げている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬チェック表を使用して適切な服薬管理を行っている。職員は個々が使用している薬の目的や副作用、用途、や要領について理解し支援している。服薬後の状態変化などの観察を行い変化があった時には適宜、協力医療機関の医師に報告し指示を仰いでいる。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の思いを大切に季節や月ごとの行事、毎日の生活の中で役割を持ち他者と関わる事で得られる喜びを大切にしている。男性入居者ならではの得意な作業を行ったり個々の生活歴に合わせた役割を持つことで活躍できる場면을支援している。	DVDやテレビ視聴、新聞や雑誌、市広報を読む、抹茶をたてる、洗濯物干し、洗濯物たたみ、座布団づくり、編み物、料理の下ごしらえ、配膳、下膳、食器洗い、掃除、習字、トランプ、かるた、庭の水まき、野菜づくり、しそジュースづくり、百人一首、季節の行事(七夕、クリスマス会、餅つきなど)、公民館活動(歌を歌う、大道芸、苔玉づくり、朗読、紙芝居など)、ボランティア(オカリナ、ギター演奏、踊り、手芸など)との交流など、活躍できる場面づくりやたのしみごと、気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の会話の中から本人の思いを聞きだし実現できるように努めている。湯田温泉街の立地を十分に利用する事で散歩や外出、買物を行っている。外出が困難な場合にも苑内に閉じこもることなく少しでも戸外の空気や雰囲気を感じて頂けるようにテラスや玄関前のエントランスのベンチにて過ごして頂けるように工夫している。特に飲食に関して喜び楽しみに繋がるような外出を行っている。回覧板や市報、新聞広告等で地域情報を見やすく壁に掲示したり閲覧できるようにし希望を出しやすい環境を工夫している。	事業所周辺の散歩や買い物、初詣(秋葉神社、琴崎八幡宮、防府天満宮)、湯田温泉まつり、七夕提灯祭り、ほたる祭り、イルミネーション見物、保育園の運動会、雛もん、夏祭り、花見(梅、桜、藤、菖蒲、バラ、寒牡丹など)、個別の外出や温泉入浴、外食行事の他、家族の協力を得ての墓参り、外泊、外食、外出、結婚式や葬式への出席など、戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の際に個々の能力に応じて支払の支援を行っている。買い物希望時には現在の預り金額を伝えどのくらいの金額を持ち出したらよいか本人に確認する方もいる。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には苑内の電話を掛けたり受けたり、携帯電話を所持され自由に家族や外部の方と関わりを持つ事が出来るような環境を作っている。毎年家族や知人への年賀状の作成を行う。苑便りにて入居者の様子を定期的に知らせる事で家族や友人から手紙を頂き喜びに繋がるように支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備委員や安全対策委員を中心に居心地良い環境作りに努めている。共有空間には季節感が味わえる飾り付けを入居者と共に行う。	二つのユニットが食堂をはさんで「く」の字型につながり、食堂から続くウッドデッキは夕涼みなど、気分転換できる場となっている。それぞれの食堂からは、隣のユニットの利用者の顔が見え、窓からの強い日差しは白いカーテンやすだれで調整している。廊下や玄関には、季節の花や利用者と職員がつくった季節の作品などを飾り、ベンチや椅子等を置いて、一人ひとりの居場所となっている。温度や湿度、換気に配慮して、居心地良くすごせるような工夫をしている、	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスや廊下、リビング、玄関エントランス等に木製ベンチや畳縁台を置くことで自由に好きな時に好きな場所で好きな人とくつろぐ事の出来る環境を作っている。本棚を側に置いたり写真を飾ることで入居者通しの会話が弾んだり思い思いの過ごし方ができるように工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのある使い慣れたものを使用して頂く事が本人の安心感に繋がる事を家族へ説明し必要に応じて可能な限り持参して頂いている。好みの椅子やカーテン、のれん等を購入されたり、本人の思い通りに居室を飾ったり、家族写真や思い出の写真を飾るなどし居心地良い空間作りの工夫をしている。	テレビ、テーブル、いす、衣装ケース、アルバム、ぬいぐるみ、家族の写真、行事の写真、利用者がつくった手芸作品、生活用品、新聞などを持ち込んで、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員事体が入居者にとって一番身近で重要な影響力のある環境である事を理解し支援していく必要性を管理者やユニットリーダーを中心に職員会議や日常的な職員の会話の中で話し合い注意し合い意識を高め合っている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム湯田あいおい苑

作成日： 平成 26年 12月 27日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	薬の事故が多く見られる。事故発生時や緊急時の初期対応が状況に応じて確立されていない。	事故や急変時に適切な実践的な対応を身に着け冷静な対応を行う。	資格を持った職員や委員会を中心に応急手当や初期対応の内部研修を年間計画として定期的(職員会議時等)に繰り返して行う。実践的なマニュアルを作成する。過去のヒヤリハットや事故事例を再検証し研修内容のテーマに取り入れる。	12ヶ月
2	36	災害時 緊急時の対応や判断が状況に応じて確立されていない。夜間時の少人数時の実践的な避難訓練に課題が多い。いざという時の地域の協力が不安である。	災害時 緊急時には職員の適切な対応を身に着けご近所の応援や地域の協力体制を築く。	資格を持った職員や委員会を中心に消防訓練や夜間時の実践的な対応の研修を行う。地域に関しては運営推進会議やご近所への顔馴染みの関係を日常的に築いていく働きかけをする。	12ヶ月
3	30 38	湯田の繁華街にある立地を生かした外出の支援や暮らしが少しずつできつつある。まだ地域資源が生かしきれておらず、職員の意識統一がされていない為、職員主体の行事や一日の流れになっている。	「入居者は自己や苑内に閉じこもらず、外部とのかかわりを持つ事で人として当たり前で過ごす」ことを目標として職員一人ひとりが同じ思いを持つ。	職員会議時や日々の会話の中で地域資源について情報交換を行う。毎日の散歩や買い物、足湯利用、その他、地域資源を入居者へ情報提供する。手作り地域マップなどを作り興味が持てる環境を作る。入居者の会話や思いを見逃さず苑内での行事やゲームなどの楽しみを地域へと目を向け、その思いを即実行に移す。	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。